

日販連通信

第 14 号
2011 年 5 月 7 日 発行

発行者：日本販売農業協同組合連合会

中塚 敏春

住所：〒151-0053

東京都渋谷区代々木2-5-5

新宿農協会館

電話：03-3375-6399 Fax：03-3375-6637

Eメール：info-agricoop@pearl.ocn.ne.jp

【大切な記録】 **夢と希望を満載、産直の原点示す**

大分県下郷農協が 4 トン車で 東北 3 県の被災地を直接走る



(宮城県東松島市矢本西市民センターで避難した住民を激励しました)

右から2人目は迎えた宮城農民連鈴木事務局長

3月24～28日、大分県下郷農協の理事、参事が交替運転で、東都生協の草加センター、福島、宮城、岩手の各県農民連、被災地の避難所に直接緊急支援物資を届けてきました。燃料不足の真っ只中を燃料を搭載して走りとおしました。「何かできることをしたい」との組合員の声から理事会で4トン車を出すことを決定しました。トラックには下郷農協の農産品、医療品、中津市商工会などからの救援物資を満載にして、組合員みんなの「心はひとつ」の思いを届けました。矢崎和廣組合長は「復興までには相当時間がかかる。第二段を是非とも実現したい」と語っています。

下郷農協では4月1日に組合員、職員を集めて報告会を開催しました。報告会の様子が農協機関紙「下郷農協」4月号に掲載されました。下郷農協ならではの取り組みですので、全国の皆様へのご紹介のために転載させていただきました。

東日本大震災 「何か出来る事をしたい」

みんなの気持ち届ける

救援物資輸送代表団の 報告会を開催



四月一日十八時から農協二階会議室で、東日本大震災の救援物資輸送代表団（団長・三上英範理事）の報告会が、組合員・職員など約五十名が参加して開催されました。

報告会では冒頭、矢崎組合長より三月二十四日夕方農協の四トトラックで出発し岩手県・宮城県等に救援物資を届け、無事二十八日朝方に任務を終え帰ってきた代表団四名に感謝と労いのことばを送るとともに、組合員や役員はじめ支援に協力頂いた方々にお礼が述べられました。

続いて事務局より取り組み経過等の概要と、救援物資・輸送経費および募金活動の中間報告が行われました。

代表団の報告では、松本参事（田尻理事）三上理事（山崎理事）がそれぞれ輸送行程ごとの報告と感想等を、写真や映像を交えて行いました。

代表団は報告のなかで、「東北自動車道に入って風景が一変、戦場のような気持ちになった」「被災地に向かっていく時点で、中継所では物資が降ろせない状況だったが、輸送の目的は被災者に直接救援物資と、何



か出来る事をしたい」という皆の想いを届ける事だったので任務が果たせて良かった」「被災者の、大分からご苦労さま、ありがとうの言葉が逆に励みになった」「避難所で聞いた被災した遺体はジャンパーやリュックサックを背負い準備して逃げようとした人が目立ったの言葉に複雑な気持ちになった」「避難所を案内され、プライバシーの問題や長期化する避難生活でのストレス等、共同生活が出来ののだろうか」と心配になった」等々、生々しい報告もされました。

今後の取り組みについては、まだまだ手を付けられない場所がたくさんある」という現地の声を紹介しながら、「半年先か、何を持って行くかまだ分からないが、第二段として自分たち出来る支援として直接救援物資

を届けに行くべき」「夏になれば夏場の問題も出てくると思う、救援・復興が短期間で終わることはない」「行政も取り組むと思うが、農地など全て無くした被災者もあり、農民連を通じて下郷が永住受け入れし、人間らしく生きられる手伝いが出来ればよい」など、代表団の感想が述べられました。

最後に矢崎組合長が、「長期化する被災地の復興に向け、下郷農協として出来る限りの事を行いたいので、引き続きのご理解とご協力をお願いしたい」と訴え、報告会を終了しました。

(f)

④



報告会で紹介した写真を農協二階会議室に掲示していますので、ご覧下さい。

【重要】

東海地震が 87% の確率！

ちなみに宮城県沖地震は 99% の確率でした。

地震予知連絡会が東海地震を今後 30 年以内に発生する確率を 87% としていて、昨夜、菅首相も原子炉停止の要請の根拠としてあげました。

東海地震は、駿河湾から九州にかけての海底の溝、南海トラフ沿いで起こる地震のひとつで、西隣に南海地震、さらに西に南海地震の震源域があることは知られています。それぞれの地震は 100～150 年おきに発生しています。東海地震は前回は 1854 年ですすでに 150 年以上経過しています。

東南海、南海の 2 地震も前回から 65 年前後が経過し、この再発も現実味を増しています。このため中央防災会議は「三つの地震が連動する巨大地震の懸念が高まった」としていました。

しかし、今回、日本で最大と考えられた 3 連動地震を上回る東日本大震災が発生。地震学者からは「4 連動も考える必要がある」との声も上がり始めているといいます。

今回、菅首相が東海地震を 87% として報道した基礎資料は「全国を概観した地震動予測地図」 2010 年版（地震調査研究推進本部 地震調査委員会）は以下のアドレスにあります。

http://www.jishin.go.jp/main/chousa/10_yosokuchizu/index.htm

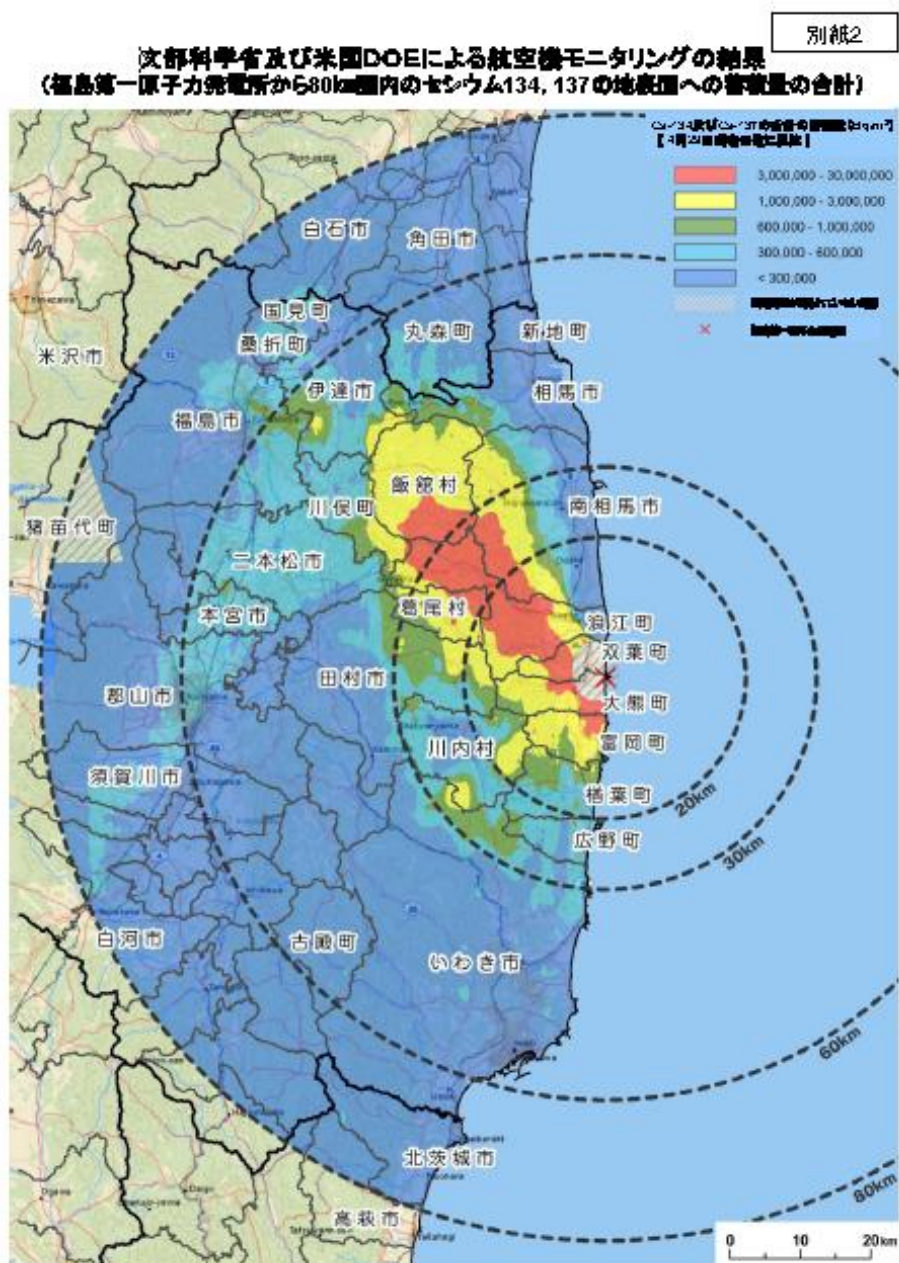


【情報】

チェルノブイリクラスの汚染か

5月6日、「文部科学省及び米国エネルギー省航空機による航空機モニタリングの測定結果について」が文科省より公表されました。実施目的は、「広域の放射性物質による影響の把握、今後の避難区域等における線量評価や放射性物質の蓄積状況の評価のため」としています。文科省と米国エネルギー省が共同で航空機モニタリングを実施し、福島第一原子力発電所から80kmの範囲内において、地表面から1mの高さの空間線量率、及び地表面への放射性物質の蓄積状況を確認しました。航空機モニタリングは、地表面の放射性物質の蓄積状況を確認するため、航空機に高感度で大型の放射線検出器を搭載し、地上に蓄積した放射性物質からのガンマ線を広範囲かつ迅速に測定する手法でおこなったものです。

測定実施日は4月6日～29日で、福島第一原子力発電所から80kmの範囲内の地表面から1mの高さの空間線量率、及び地表面に蓄積した放射性物質（セシウム134、セシウム137）の蓄積状況を確認しました。



この結果、原発から北西方向にセシウム137が1平方メートルあたり300万～1470万ベクレルの汚染地域が帯状に広がっています。チェルノブイリ原発事故では、セシウム137が55.5万ベクレル以上の地域が強制移住の対象となったとのことです。

今回の計測で薄い水色(30万～40万ベクレル)が飯館村から南西への帯状があり、二本松市、郡山市、須賀川市、白川市の中通りまで延びていること、北は宮城県白石市、丸森町内まで伸びていることが確認されました。昨日、福島農民連の方が「山が汚染されると川伝いに水田が高濃度に汚染される心配がある」と指摘していました。

平和行進(東京→広島)スタート

三浦さん(福島県農民連)、原発廃止を訴え行進

今年は特別な平和行進です。原発はいらない！ 核兵器廃絶を求めて一歩一歩踏みしめ、広島・長崎をめざそう！——5月6日、今年も国民平和行進がスタートしました。

東京・夢の島公園の第五福竜丸平和記念館前で行われた出発式には、農民連をはじめ各界団体の代表ら約700人が、旗や横断幕を持って集まりました。福島第1原発事故の被災地から参加した福島県農民連の三浦広志さんがマイクを握り、「**原発から11kmの私の田んぼは、放射能で汚染され、もう米づくりはできません。今度の大地震で、原発と人間は共存できないことがはっきりしました。新たな土地で命をはぐむ農業を続け、原発をひとつひとつなくしていくことを訴え続けます**」と決意表明。農民連本部のスタッフらとともに行進に合流し、東京の下町に歌声を響かせながら、沿道の人たちに核兵器廃絶とエネルギー政策の転換を訴えました。

また、千葉県農民連の石橋正さん(旭市)が育てた花「スターチス」1,000本が参加者に配られ、「花を持って行進しよう。売上げは被災地



700人が核兵器廃絶を訴え行進



出発式で原発の廃止を訴える三浦さん

にカンパします」と呼びかけられました。国民平和行進は、8月の原水爆禁止世界大会をめざして全国すべての自治体をめぐります。農民連の旗をリレーして、「被災者に全面賠償を！」「自然エネルギーへの転換を！」の声を上げましょう。

(農民連地震対策本部 No.44 より)

みなさまのご意見・ご感想をお待ちしております。 アドレス: info-agricoop@pearl.ocn.ne.jp